

平成28年度南部地区道徳教育研究協議会指導講評より<指導のポイント(抜粋)>

【研究協議題:第1日】

「『特別の教科 道徳』の全面実施に向け、児童生徒の道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を育てるために、道徳の時間の指導方法についてどのような工夫改善を図ることができるか。」

【授業全般】

- 道徳の時間は、教師が「価値の明確化」を図る中で、子供たちが「自己の生き方を考える場」です。そのために教師が、どこの場面で何を考えさせるのか意図すること、そして、子供一人一人の考えを引き出し、子供自身の中で生き方を見つけるための、発問・授業形態の工夫が大切です。
- 教師の一方的な押し付けや単なる生活経験の話し合いなどに終始しないよう留意し、相応の指導の計画や方法を講じ、指導の効果を高める工夫をすることが大切です。そのために、指導方法(体験的・問題解決的な学習等々)においては、授業者が明確な意図(何のためにそれをやるのか)をもつようにします。大切なことは、子供たちが、自分の考えをもち、表現し、人の考えを聞き、自分の生き方を深く、深く考えることです。
- 道徳的判断力等を育てるための視点として、①目指す価値の逆のことを考えさせる、②自分自身に置き換える、等が有効です。
- 求められる道徳の時間は『理性的展開』です。子供たちが「どうしてか?」「なぜか?」を理論的に考えられるよう配慮します。
- 子供たちが、学んだことを振り返る場を設定する(1週間に1回)ことも有効です。道徳の時間に表現していなくても、きちんと考えている子供はたくさんいます。
- 「考え、議論する道徳」を活発にするために、年度初めの4、5月の資料選定の際、議論しやすい内容を扱うのも有効です。

【導入】

- 価値への方向付けをダイレクトに行っていきます(短時間で)。その際、指導方法の工夫により、子供たちの心に響く導入を心掛けます。

【展開】

- 範読は、上手に(メリハリ、気持ちを込めて)読んであげます。それだけでも子供たちの心に響きます。
- 「教師が待つ」=「子供たちに確実に考えさせる」といった視点が重要です。

【終末】

- 振り返りの時間をしっかりと確保し、子供たち一人一人が、自分の生き方について、自分の意見として(言葉として)まとめられるよう配慮します。
- 「教師の説話」等は、子供たちの生活の場面への橋渡しとなるようにします。

【発問】

- 柱立ては、子供たち全員が参加でき、刺激を受けるようなパターンに配慮します。その際、発問同士のつながりにも配慮します(道徳では発問同士のつながりがとても大事です)。
- 中心発問時(価値について考える時間)は、最も多くの時間を確保します。そこで、教師が切り返し揺さぶったり、子供たちに議論させたりすることが考えられます。
- 意見等の際、友達と比べたり付け足したりして言えることが大事です。(〇〇さんと同じで～、□□さんと似ていて～等)

【板書】

- 板書は「これでなければいけない」ということではありません。縦の板書は時間の流れに沿うためのものであり、横の板書は人間関係等の構造を視覚的に把握しやすいものです。目的に合わせて、効果的な板書の仕方について研究を深めていってください。

【評価】

- 子供たちの学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握していきます。そのために道徳ノートやポートフォリオ等の活用を図ります。

【研究協議題:第2日】

「『特別の教科 道徳』の全面実施に向け、自校の道徳教育の一層の充実を図るためには、全教職員の協力体制の確立、家庭・地域社会との連携が重要である。道徳教育推進教師として、どのような役割を担い、工夫改善をすればよいか。」

【道徳教育推進教師の役割】

- 埼玉県小・中学校教育課程編成要領（道徳）平成28年3月 埼玉県教育委員会の18ページを熟読するなど、推進教師としての役割をしっかりと認識することが大切です。
- 組織的な働き掛けが大切です。推進教師が全てやるのではなく、協力体制を整え、組織を生かした取組を進め、見届けを行っていきます。

【道徳教育の指導計画】

- 教科化に向け、道筋を示していく必要があります。全体計画や校長の方針等の情報収集を行いながら、年間指導計画等について吟味していきます。
- 「全体計画の別葉」の作成と活用を図ります。例えば、別葉を職員室に学年ごとに掲示し、指導した事項を確認し合うなどの方法が考えられます。これは、教員が、各自の道徳教育について自己点検するとともに、他学年の進捗状況を確認して自らの指導の参考とすることなどが可能になってきます。
- 道徳教育におけるスクールプランを立てることも有効です。例えば○学年の子供たちに育てたい価値について、特別活動や総合的な学習の時間等の視点を取り入れたプランを作成し掲示するなどです。このことにより、教育活動全体を通して進めていく上で、全教職員がイメージしやすい環境が構築できます。

【道徳の時間の充実と指導体制】

- アンケートを実施する場合は目的をしっかりと見定めて行います。さらに、変更を見るために2回以上実施することも肝要です。
- どのクラスでも道徳の時間が充実するよう授業のスタイルをつくっていくことも有効です。そして、年度当初にしっかりとそのスタイルを身に付けさせます。

【道徳教育に関する情報提供や情報交換】

- 取り留めのないことではありますが「道徳の話題をたくさん出してみる」ことはとても大切です。
- 学校間では、小・中学校間で授業を見合ったり、道徳だよりを配布したりするなどの取組も有効です。

【家庭や地域社会との連携】

- 家庭に何かをお願いする場合は、授業内容を事前に知らせたり、価値やねらいを明記し例文を示したりします。また、保護者に授業に参加してもらう際には、何のために授業に参加してもらうのかを明確にして取り組みます。
- 保護者や地域の方々によるゲストティーチャー等、人材発掘は重要です。そのためのアンテナを常にはり、「呼ぶ」「出向く」等をしながら保護者や地域との連携を充実させていきます。